

## ■ まちの話題

### 「須賀川牡丹園」多くの観光客でにぎわう

4月21日から開園した須賀川牡丹園。園内では、各種イベントが行われました。

5月1日には、園遊会を開催。あいにくの小雨の中でしたが、招待者や関係者など約350人が出席。観光牡丹大使で本市出身の落語家桂幸丸さんが、ふるさとトークを行いました。

大型連休には、イベント会場で様々な催しが行われ、大いに盛り上がりました。



桂幸丸さんの軽妙なトークに笑い声が絶えませんでした(5月1日)



須賀川桐陽高校書道部の皆さんが迫力のパフォーマンスを披露(5月3日)



多くの子どもたちが来場したウルトラマンオープンショー(5月5日) ©円谷プロ

### 千葉ロッテマリーンズの井口資仁選手が来庁 — 車椅子を寄贈 —

5月8日、愛基金の代表を務める千葉ロッテマリーンズの井口資仁選手が来庁し、橋本市長に車椅子3台を寄贈しました。

井口選手は、平成26年に新庁舎建設資金100万円や、「井口選手と福島県須賀川市の市庁舎を作ろう！復興支援プロジェクト」で集まった支援金200万円を寄付し、その際、野球教室も開催しています。



シーズン中にもかかわらず、本市を訪ねていただきました

### いつまでもお元気で～百歳賀寿贈呈式～

5月8日、安田ミエさん(市内滝)の百歳賀寿贈呈式が行われ、ご家族が見守る中、賀寿、記念品が贈呈されました。

ミエさんは若い時から体が丈夫で、現在も毎日家の中を歩いたり、身の回りのことは自分で行うなど元気に過ごしています。

自分でできることは自分ですること、好き嫌いなく毎日三食食べることがミエさんの長寿の秘けつです。



賀寿を受け取るミエさん



## ふるさとの遺産<sup>27A</sup> 国史跡 須賀川一里塚

道路の両脇に一里(約4キロメートル)ごとの印として置かれ、里程や駕籠などの運賃の目安とされていた塚を一里塚といいます。江戸時代初期の慶長9年(1604)、幕府が江戸日本橋を起点として、東海道・東山道・北陸道を整備

する中で全国に築かれました。須賀川には、現在の一里垣の旧奥州道沿いに一里塚が残っており、「須賀川一里塚」として国の史跡に指定されています。一里塚は、5間(約9メートル)四方の丸い塚で、その上にはエノキやマツが植えられました。木はその根で塚を崩れにくくし、旅人が休憩できる木陰を作る役割も果たしました。須賀川一里塚の上にも、エノキが枝葉を広げ、当時の姿を彷彿とさせます。明治時代、鉄道の発達とともに一里塚はその役割を終え、多くは失われていきました。現在、全国で16か所の一里塚が国の史跡となっており、須賀

川一里塚は、東北で唯一国史跡に指定された一里塚です。現代の交通の大動脈である国道4号が、旧奥州道の西側を並行しています。僅かな松並木と一里塚が残る静かな旧奥州道と、大型トラックが行きかう国道4号が、江戸時代から現代への時の流れを感じさせます。



エノキが生い茂る須賀川一里塚



### しゃくなげカローリング愛好会

代表者 横井 繁徳  
会 員 20人  
発成年月 平成21年1月  
連絡先 ☎(69)1823  
活動日 毎週金曜日 午後1時～午後4時  
活動場所 長沼公民館

この会は、健康を維持するためにカローリングがよいと聞き、皆で集まって活動するようになりました。カローリングについて勉強し、検定を受けてインストラクターの資格を取った人もいます。活動時間の3時間のうち、カローリングをする時間は2時間30分程度で、皆楽しく参加しています。

カローリングで楽しさを感じるの、ローラーが的の中心に入ったときです。3人で1人2回ずつローラーを投げますが、ローラーにはそれぞれ癖があり、なかなか真つすぐに投げられません。癖を早く知って、的の中心に入れることが、勝敗を大きく左右します。癖を見抜く観察力や集中力も必要です。

ゲームでは、カーリングのように大きい声で指示を出したり、皆で戦略を練ったりします。頭も体も使う健康的なスポーツ「カローリング」を楽しんでみませんか。 木之崎 横井 繁徳



健康づくり課 ☎(88)8123

**家庭でも取り組みましょう**  
現在は、好きなときに好きなものを食べることができる時代です。そのため、食べ物を選択し、上手に組み合わせることが必要になります。  
食育月間中は、いつもより「選んで食べる」「家族のコミュニケーションを深める」などを意識して、「食べることを考える機会」にしてください。

▼食べ物の選択や食事作りができる力  
▼社会性を身に付けられる力(一緒に食べたい人がいる)  
▼感謝の心を持てる力  
▼日本の食文化を理解し伝えることができる力  
(内閣府「食育ガイド」より)

**食育で育てたい「食べる力」**  
▼心と体の健康を維持できる力  
▼食事の重要性や楽しさを理解できる力

**生きる上の基本「食育」**  
食育とは、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てることです。

現在を生き生きと過ごし、そして生涯にわたって、健康に暮らすために、「食べること」がとても大切です。食育を効果的に進めるため、6月を「食育月間」、毎月19日を「食育の日」と食育基本法で決めました。

